



こんにちは、
共生社会
ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ



2025年度を振りかえる

2019年にこの事業を始めてから、丸7年が経ちました。当時は想像もできなかった景色が、いま、私たちの前に広がっています。

「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」は、関わる人すべてが新たなビジョンや価値観を見出し、社会的弱者に対する理解を深めながら、社会における「真の共生」とは何かを考える機会を生み出すことを目的とした芸術文化事業です。障害の有無、家庭環境や経済状況、ルーツ、性別など、一人ひとりの〈差異〉を優劣ではなく独自性としてとらえ、その差異が交わり、循環し、関係性として立ち上がっていくことを大切にしてきました。

本事業は、NPO法人DANCE BOXが運営する、神戸・新長田の小さな劇場(ArtTheater dB KOBE)を拠点に、文化芸術の体験機会の創出、鑑賞機会の拡充、アーティストの育成・支援、そして出会いと対話の場を生み出すことを柱として展開しています。

その中心的な取り組みの一つが、月1回の「やさしいコンテンポラリーダンスクラス(やさコン)」です。正解も間違いもなく、お互いのダンスを味わい、楽しみ合うこの場では、「障害者」「支援者」といった役割や、ダンス経験の有無や上手下手ではなく、一人ひとりが〈その人〉としてそこに在ることを大切にしています。発表を目的としないからこそ、じっくりと身体と向き合い、関係性を紡ぐ時間が育まれてきました。一方で、出前パフォーマンスや出張ワークショップの機会が増えたことから、2023年度より「やさコンプラス」を立ち上げ、人前で踊ることを望むメンバーが挑戦を重ねています。舞台経験を積むなかで、一人ひとりのダンスに磨きがかかり、チーム感も出てきました。

今年度はアウトリーチ活動として、視覚特別支援学校でのダンスワークショップを初めて実施しました。多数の生徒と向き合う

場での実践には慎重さが求められることから、イギリスのインクルーシブダンスの先駆者であるアダム・ベンジャミン氏を講師に迎えました。生徒も先生も、初めてのダンス体験でしたが、「楽しかった」という感想をいただき、今後も継続して体験を深めたいと考えています。

当事業のもう一つの軸となる「ダンスカンパニーMi-Mi-Bi」は、社会や暮らしのなかで障害を覚える身体のパフォーマーを含むコンテンポラリーダンスカンパニーとして、2022年に結成しました。障害のある人が舞台の上にも観客席にもいることが当たり前前の風景を目指し、主体的に創作と運営に関わる場をつくりたいという思いが出発点です。

今年度前半は、舞踏を礎にした振付家・紅玉氏を迎え、身体の記憶から表現を立ち上げる創作に取り組みました。後半には、台湾および韓国のカンパニーとの国際的なコラボレーションを実現し、挑戦と対話を重ねる濃密な時間となりました。これらの関係は次年度以降も継続し、海外での上演も予定しています。

Mi-Mi-Biという名前には、「未だ見たことのない美しさ」という意味が込められています。計画し、実践し、出会い、迷い、摩擦を経験し、助けを求め、別れを受け止め、それでも信じ続けること。「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」の事業の一つ一つが、ハウトゥで成り立つ事業ではありませんが、知恵や想いを共有しながら、歩みを続けていきたいと考えています。

今年度も、たくさんの方々のお力添えによって、本事業を展開することができました。関わってくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

そして、この報告書を手にとってくださった方も、新たな出会いが生まれ、また何かを共につくっていけることを願っています。

「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」プロジェクト・チーフ あや 文



過去の報告書はこちらから

やさしいコンテンポラリーダンスクラス

03 やさしいコンテンポラリーダンスクラス

05 やさコンプラス、旅するクラス

見えない人と踊るために

09 Adam Benjamin ダンスワークショップ

アウトリーチ

10 兵庫県立視覚特別支援学校、神戸市立青陽灘高等支援学校

ダンスカンパニーMi-Mi-Bi

11 カンパニー・レパートリーの創造

13 国際共同プログラム

17 オープン稽古／映像配信

共催事業

19 HAPPY AFRICAN FESTIVAL 2025

情報保障

21 情報保障／ウェブサイト・SNS

やさしいコンテンポラリーダンスクラス

踊ってみたい方はどなたでも♪
やさしいコンテンポラリーダンスクラス

2020年にスタートし、今年で5年目を迎えた定期クラス『やさしいコンテンポラリーダンスクラス』。

「踊ってみたい人はどなたでも♪」を合言葉に、年齢や障害の有無に関わらず、踊ってみたい人が参加できるダンスクラスを、月に一度のペースで開いています。参加者は毎回25名ほど、多い日は30名を超え、遠方から足を運んでくださる方もいらっしゃいます。継続して参加しているメンバーが自然に初参加の方へ声をかける姿も見られ、あたたかなつながりが広がっています。

クラスは簡単なストレッチから始まり、シンプルなルールをもとに、その日のからだとの出会いながらのびのびと動かします。誰かのダンスに心が動き、思わず笑顔や歓声がこぼれることもあります。誰かと一緒に踊る時間、ひとりで思い思いに踊る時間、そして自分のダンスも誰かのダンスもじっくり観察する時間。それぞれのペースも大切にしながら、正解やまちがいのない表現を楽しみ、分かち合う90分を重ねています。

ナビゲーター：西岡樹里

日程：2025年 4月5日(土)、5月18日(日)、6月22日(日)、7月6日(日)、
8月17日(日)、9月7日(日)、10月12日(日)、11月30日(日)、
12月7日(日)、
2026年 1月11日(日)、2月14日(土)、3月15日(日)

時間：10:30～12:00 会場：ArtTheater dB KOBE

対象：踊ってみたい方はどなたでも。踊ったことのない方も大歓迎。
障がいのある方も大歓迎。ベビーカーなどのお子さんづれもぜひ。

参加料：無料(カンパ制)





参加者の声

- 待つ時間を大切にしてくれる
- 人からの評価を気にせず表現できる
- 皆さんの肯定感が高くなるのを感じて、可能性を感じました。
- ダンスを踊るのは楽しかったです。ダンスマスターになります！

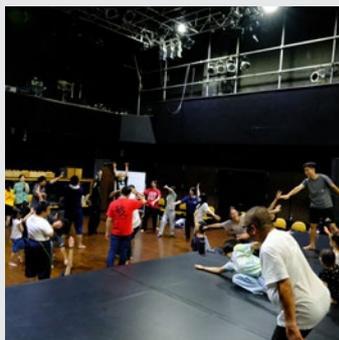


Photo by Yu Suzuki

やさしいコンテンポラリーダンスクラス

出張版やさコン

やさコンプラス・旅するクラス

2023年より、やさコン参加者の有志を中心にパフォーマンスをする『やさコンプラス』をスタートしました。通常のクラス終了後にリハーサルを重ね、本番に臨んでいます。その場の空気や作品、出会った人々と呼応しながら、その日限りのダンスが立ち上がります。コンテンポラリーダンスならではの「その人自身の踊り」は、踊る側と見る側のあいだをやわらかくひらき、あたたかな時間を生み出しています。

そして、いつもの劇場を飛び出し、出張先で出会う方々とともにダンスを楽しむ『旅するクラス』も実施しました。場や人との出会いから生まれる時間は、やさコンの輪をさらにひろげる機会となっています。

ナビゲーター：西岡樹里

出張① 響愛GARAコンサート

日程：2025年4月6日（日） 会場：ホテル北野プラザ六甲荘
出演：大場勇輝、後藤由里、小西朱美、是川恵有、巽美燈、巽由美子、津野亜由美、原田貴子、米原幸、西岡樹里
主催：パラ・アーティストマネジメント



観覧者の声

- 観客でありながらどんどん舞台に引き込まれて演者と一緒におどっているきもちになりました。不思議な感覚ですね。

参加者の声

- 誰もが楽しく参加でき満足感がありとても良かったです！
- とにかく楽しかったです。心も身体も大喜びでした。ペアを組んでくださった方と呼吸が合っていく感じが最高でした。



出張② ころとからだがよろこぶひろばvo.17 -ミニパフォーマンス&ダンスワークショップ-

日程：2025年5月17日(土)

会場：アート山大石可久也美術館 メインギャラリー

出演：大場勇輝、後藤由里、小西朱美、是川恵有、下村唯、下村彩桜、
津野亜由美、米原幸、西岡樹里

共催：NPO法人淡路大磯アート山を創る会



出張③ さつきくすのき祭 -パフォーマンス出演-

日程：2026年2月7日(土) 会場：社会福祉法人 協同の苑

出演：大場勇輝、後藤由里、小西朱美、是川恵有、津野亜由美、
米原幸、西岡樹里

共催：社会福祉法人 協同の苑







2025年を振り返って



西岡樹里さん

ダンサー

コラム 「やさしいコンテンポラリーダンス」ナビゲーター



©阪下混成

今年度も子供から大人まで、障がいを持つ人も持たない人も参加して頂き、それぞれのペースでダンスを通して誰かと関わりながら過ごしてきました。

そしてそこから生まれてくる踊りはどんなものなのか、ひとりひとりのからだの体験から感じる場となりました。

いつもの月一クラスでは「待つ時間を大切にしてくれる」「人の評価を気にせず表現できる」「古い友人と過ごしたよう」という皆さんからの声もあり、この場に安心感を持って頂けていることが伺えました。その積み重ねから「みんなの肯定感が高くなるのを感じる」との声もあり、動いてみよう、やってみようと思う気持ちが生まれていたように思います。「ダンスマスターになります!」という言葉からも、安心感や楽しさの中から意欲が芽生えていることが伝わります。「子供の成長を目の当たりにして、親としても幸せな時間」との声もありました。

出張パフォーマンスでは「観客でありながらどんどん舞台に引き込まれて演者と一緒に踊っている気持ちになりました」と自然と観客との境界線を超えていくような体験を共有することができました。ワークショップでは「誰もが楽しく参加でき満足感があった」「ペアを組んだ方と呼吸が合っていく感じが最高」などからだを通して人と関わる感覚を実際に体験してもらうことができました。多彩な発想力のやさしコンメンバーの踊りを観た後、観客自身が動くことを楽しむ様子が見られ豊かな影響を感じています。

興味を持つ方にこの場を広げていくと同時に、変わらないいつものやさしコンを続けていくことの大切さを感じています。

今年度もこの場に関わって下さった皆さま、一緒に踊ってくれた皆さま、ありがとうございました!

見えない人と踊るために

Adam Benjamin

ダンスワークショップ「見えない人と踊るために」

イギリスをはじめとする世界中のインクルーシブダンスを牽引してきたアダム・ベンジャミン氏を講師に迎え、「見えない人と踊る」ことにフォーカスした、ダンスのワークショップを開催しました。視覚に頼らない身体感覚や触覚、声、呼吸を手がかりに関係を築くワークなど。参加者は、導く／導かれるといった固定的な役割を超え、互いの感覚をひらき合いながら即興的に応答するプロセスを体験しました。見える・見えないという区分を問い直し、ともに踊るために、想像力の回路を開き、実践的な方法を学ぶ機会となりました。

日程：2025年10月1日(水) 時間：10:30～16:30

会場：ArtTheater dB KOBE

講師：アダム・ベンジャミン 日英通訳：山口恵子



アウトリーチ

兵庫県立視覚特別支援学校

アダム・ベンジャミン氏のナビゲートによる、視覚障害のある子どもたちを対象としたダンスワークショップ「からだで会話する。ダンスが生まれる。」を実施しました。互いの掌を合わせて聴き合うことから始め、徐々に距離を変化させていきました。見えない他者の身体に近づき、触れることは、自分の存在をやわらかく、かつ明確に相手に示すことでもあります。見えないからこそ研ぎ澄まされる感覚が、身体の変容と豊かな対話を生み出し、美しい風景を立ち上げさせました。

日程：2025年10月2日(木)

時間：13:25(100分) 会場：ArtTheater dB KOBE

ナビゲーター：アダム・ベンジャミン 日英通訳：山口恵子

アシスタント：田中幸恵、下村唯、木村愛子、アステシア・
フィットリ・ブラニ、も、眺野花、鈴木優、文

対象：兵庫県立視覚特別支援学校 高校生、
神戸市立盲学校 中学生 約30名



神戸市立青陽灘高等支援学校

今回はダンスとは関係なさそうな道具からダンスを始める体験をするために「ポリ袋」を使用しました。手や身体を使って他者に袋を渡す中で思いがけない身体の出会ったり、他者とは違う袋の持ち方をしようと試みたりと、生徒も先生も挑戦と発見を繰り返しダンスを身体で楽しみました。

日程①：2026年2月17日(火)

時間：10:40(70分) 対象：高校3年生 約30名

日程②：2026年3月12日(木)

時間：9:20(50分) / 10:30(50分)

対象：高校1、2年生 約70名

ナビゲーター：西岡樹里

アシスタント：田中幸恵、新家綾、下村唯、文



ダンスカンパニーMi-Mi-Bi

カンパニー・レパトリーの創出



『少年少女』－私の身体は空と繋がっている

障害のあるパフォーマーを含む、神戸を拠点に活動を展開するダンスカンパニー「Mi-Mi-Bi」。2022年に結成し、今年度で4年目になります。これまでメンバーが演出を担ってきたMi-Mi-Biですが、今年度は舞踏をベースとする千日前青空ダンス倶楽部の振付家・紅玉^{あかだま}を迎え、カンパニーとして初のレパトリー作品を創作しました。本作は、『DON DON DANCE BOX 事業報告&紹介会』にて短縮版を上演し、鈴木ユキオ×Stopgap Dance Company『Beyond』、『HAPPY AFRICAN FESTIVAL 2025』にて、上演しました。今後もトークやワークショップと組み合わせながら、日本全国、また国外での展開を計画中です。



演出：紅玉(千日前青空ダンス倶楽部)

出演：森田かずよ、福角幸子、KAZUKI、三田宏美、も

協力：稲吉、ポン太、エミリー(千日前青空ダンス倶楽部)



上演歴

DON DON DANCE BOX 事業報告&紹介会2025

日時: 2025年8月1日(金) 18:30 ※10分ほどの短縮版として上演
 主催: NPO法人DANCE BOX

鈴木ユキオ×Stopgap Dance Company 国際共同制作プロジェクト「Beyond !」

日時: 2025年9月14日(日) 14:00、18:30 / 9月15日(月祝) 14:00
 主催: 鈴木ユキオ×Stopgap Dance Company国際共同制作実行委員会
 共催: 独立行政法人国際交流基金
 共同制作: 鈴木ユキオ×Stopgap Dance Company国際共同制作実行委員会、
 独立行政法人国際交流基金
 助成: 日本国万国博覧会記念基金、公益財団法人セゾン文化財団
 制作協力: NPO法人魁文舎、YUKIO SUZUKI projects、
 NPO法人DANCE BOX

HAPPY AFRICAN FESTIVAL 2025 【コンテンポラリーダンスプログラム】

日時: 2025年11月14日(金) 13:30、18:30 主催: Arts For All
 共催: 文化庁、NPO法人DANCE BOX (文化庁委託事業「令和7年
 度障害者等による文化芸術活動推進事業」)
 助成: (公財)ひょうごコミュニティ財団



コラム

KAZUKIさん

Mi-Mi-Biメンバー

ろう者・俳優・身体表現者・デフパフォーマー

Mi-Mi-Biの3作目『少年少女』は、私にとってもMi-Mi-Biにとっても新たな「表現の地平」を拓く経験でした。紅玉さんの演出を通じ、舞踏として初めての挑戦であり身体表現に対して常に問い掛けられた日々でした。全身から溢れ出す表現として非常に刺激的でしたし、なお自分らしい「ノイズ」が生まれたのではないかと今、改めて感じています。しかし、突然訃報があり、戸惑いもありながらこれまでの稽古内容の振り返りや、千日前青空ダンス倶楽部の方々の協力のおかげで最後まで駆け抜ける事ができました。これまでの記憶と共に、異なる背景を持つダンサーたちと混ざり合うことで、自分自身の身体が新たな意味を持つことを実感しました。この作品で経験した事を大切に観客の皆さんと未知なる身体感覚を共有する旅を続けていきたいです。

ダンスカンパニーMi-Mi-Bi

台湾 × 日本 国際共同制作

Resident Island Dance Theatre × Mi-Mi-Bi

台湾を拠点に活動するダンスカンパニーResident Island Dance Theatreより、振付家の張忠安をはじめ4名のダンサー、制作者が来日しました。約1週間という限られた滞在期間での制作となったため、今回は張忠安に演出を委ね、新長田の商店街を舞台にコラボレーション・パフォーマンスを実施しました。

本プロジェクトは昨年、台湾と日本の国際共同制作として始動し、初年度は互いの創作手法や背景を共有する「エクスチェンジ・ワークショップ」を実施しました。2年目となる今年は共同制作の第一歩として、『HAPPY AFRICAN FESTIVAL 2025 コミュニティプログラム』にてショートパフォーマンスを発表しました。現在は、今後の継続的な展開に向けて協議を重ねています。

日程：2025年11月15日(土) 時間：11:30 演出：張忠安

会場：二葉地域福祉センター前

出演：Resident Island Dance Theatre、ダンスカンパニーMi-Mi-Bi(福角幸子、三田宏美、も、森田かずよ)

日中通訳：齊藤夢

主催：Arts For All

共催：文化庁、NPO法人DANCE BOX(文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」)

助成：(公財)ひょうごコミュニティ財団

協力：コイネー、セカンドホーム、(株)HAPPY、株式会社エフマシン

企画制作：Arts For All、NPO法人DANCE BOX





蕭淑琳さん

滞留島舞蹈劇場 (Resident Island Dance Theatre)

コラム

国際プロデューサー

今回コラボレーションした事は、私たちにとって、インクルージョンが単なる「テーマ」ではなく、芸術を創るうえでの“OS(基盤となる仕組み)”であることをあらためて実感する機会となりました。Mi-Mi-Biとの協働制作やトラック・パフォーマンスは、異なる身体、言語、コミュニケーションのあり方が、ひとつの基準に押し込められることなく出会える場を生み出しました。

特に印象に残っているのは、そのプロセスにおける丁寧さです。互いの声と身体に耳を傾け、必要に応じて方法を調整し、多様な動きのあり方を等しく尊重するために重ねられた時間。それは単にパフォーマンスへのアクセスを広げるだけでなく、パフォーマンスそのものの定義を拡張する実践でもありました。

こうした取り組みは、アーティストと観客の双方にとって、信頼や可視性、そして共有された可能性の感覚を育みます。同時にそれは、ダイバーシティを付け加えるものとしてではなく、創造を駆動する力として位置づける、実践的な未来のモデルを示しているのだと感じています。

ダンスカンパニーMi-Mi-Bi

韓国 × 日本 国際共同制作

Cane&Movement / TRUST Dance Theatre × Mi-Mi-Bi

韓国・ソウルを拠点とするCane&Movement / TRUST Dance Theatreが来日し、ダンスカンパニーMi-Mi-Biの森田かずよ、福角幸子をはじめ、障害の有無や経歴もさまざまな20~40代のダンサーとともにコラボレーション作品を創作しました。同団体との協働は、2019年の来日公演以来、二度目となります。クリエイションでは、振付家と出演ダンサーが丁寧に対話を重ね、それぞれの身体性・感覚などを起点に新たな表現を探求しました。刺激的であると同時に、カンパニーとして、今後への広がりを感じさせる公演となりました。

日程：2025年12月14日(日) 時間：17:00
会場：ArtTheater dB KOBE

第一部 Cane&Movement / TRUST Dance Theatre

『Inner Being』

演出：Hyeonghee Kim

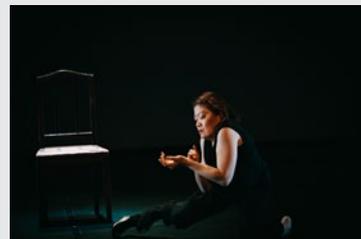
出演：Cane&Movement / TRUST Dance Theatre (Hyunjung Lee、Wanhuk Kim、Younghoon Hong、Taehun Lee、Jongtaek Sung、Dahye Kang、Jihyun Bang)



第二部 森田かずよ ソロ

『だからかしか』

演出・出演：森田かずよ



第三部

コラボレーション

Cane&Movement / TRUST Dance Theatre × Mi-Mi-Bi

『Across the Movement』

演出: Hyeonghee Kim

出演: Cane&Movement / TRUST Dance Theatre、

Mi-Mi-Bi(森田かずよ・福角幸子)、田畑真希、Shiori、
鳥居美希、中村ひとみ

日韓通訳: Kawamoto Mami 手話通訳: 三田宏美、高橋紀子

プロデューサー: Yejin Kwon、森田かずよ

制作: NPO法人DANCE BOX(文、内田結花)



中村ひとみさん

コラム 第三部『Across the Movement』出演者、ろう女優

一言で言うと、とても刺激的で楽しかった!これに尽きます。

今まで、芝居経験はあるものの、コンテンポラリーダンスは初めてで、新しい表現の世界は私の可能性を広げてくれました。約一週間ほどの期間でのクリエイション。様々な動きを試しながら、物語を創っていく過程は、「なるほど!こういう感じ!」「あれ?今、どこにいるの?」の繰り返しで、ゴールがなかなか見えなくてトンネルを掘るような感覚でした。ゴールが見えた時には、「そうか、これが私だ。これが私の中にある表現したいものだ」という納得感と、爽快感がありました。「私」をそのまま表現できたことは、とても幸せな体験でした。また、踊りたい。この機会をくださったMi-Mi-Biのみなさま、ありがとうございます。



吉野さつきさん

コラム アーツ・マネージャー、愛知大学文学部教授

久しぶりに、とても美しい作品を観た、と素直に思いました。異なる身体、異なる言語が出会う時、緊張感も生まれるけれど、信じて身をゆだね、大切に受けとめると、そこに対話生まれる。それぞれの対話が重なったり、絡んだり、ほぐれたり。とても豊かで美しいあと、自分の身体もなにか受けとめられているような気持ちで観ていました。キム・ヒョンヒさんの振り付けには個々の生と身体に対する深い慈しみを感ぜましたし、森田かずよさんのソロは心の奥底に響く重さのようなものが伝わってきました。異なることが対立ではなく対話と創造を生み出すのだと教えてくれる、このような作品が今こそ必要なのではないかと思わせてくれた公演でした。

ダンスカンパニーMi-Mi-Bi

Mi-Mi-Bi『オープン稽古』

Mi-Mi-Biが日頃行っているカンパニー稽古を公開し、その活動や創作プロセスを体験する「オープン稽古」。創作のプロセスやカンパニーの活動の一端をひらき、共に体験する機会として実施しています。それぞれに異なる身体性や感覚をあらためて見つめ直し、それらをどのように他者と共有できるのかを探る時間でもあり、多様な身体が集うカンパニーとして、稽古方法そのものを検証する場でもあります。今年度は、2025年度の事業を通して出会ったアーティストや、Mi-Mi-Biの公演を見て、活動に関心を寄せてくださった幅広い世代の方々にも参加いただきました。障害の有無に関わらず、志をともにする仲間と向き合うことで、互いに刺激を受け合う充実した稽古の時間となりました。

日程①：2026年2月3日(火) 時間：14:00~17:00 会場：駒ヶ林会館

参加者：10名 モデレーター：森田かずよ、三田宏美

日程②：2026年3月10日(火) 時間：14:00~17:00

会場：神戸市立ふたば学舎 参加者：15名 モデレーター：KAZUKI



参加者の声

- 初めてのことにチャレンジしたり、支えてもらうとこういう動きができるんだと新たな気づきがありました。
- 車いすから降りて踊ることが今まで少なく、とても新鮮な気持ちでした。楽しかったです。
- 見ること、視野を広くすることで感覚が変わることがわかりました。見ているのも踊るのも楽しかったです。
- 想像を超える体験でした。少し自分の世界が広がるくらいに感動しました。



ドキュメンタリー映画『旅する身体～ダンスカンパニーMi-Mi-Bi～』

Amazonが提供する定額制動画配信サービス「Amazonプライム・ビデオ」にて、Mi-Mi-Biの歩みを追ったドキュメンタリー映画を配信中です。本作は、2022年に豊岡演劇祭で旗揚げ公演『未だ見たことのない美しさ』を行うまでのプロセスに密着し、カンパニー結成の背景や創作の現場、試行錯誤を重ねた日々の記録です。

アクセシビリティ：視聴者が表示・非表示を切り替えられる日本語字幕付

時間：1時間7分(2024年/日本) 監督：渡辺匠、志子田勇

出演：内田結花、KAZUKI、武内美津子、福角幸子、福角宣弘、三田宏美、森田かずよ、大谷燠、文、橋本実弥

協力：NPO法人DANCE BOX 制作協力：MOM&DAVID 撮影・編集：志子田勇

プロデューサー：津村有紀、松木大輔、小池博 配給：TBS



©TBS

Amazonプライム・ビデオ▶





森田かずよさん

コラム Mi-Mi-Biメンバー / ダンサー・俳優

2025年度は、多様な振付スタイルに触れた1年となりました。レパートリー演目『少年少女』は、紅玉さんとの貴重なクリエイションの日々となりました。型がある舞踏を、違いがある私たちの身体でどのように落とし込むのか、思考錯誤から始まりました。「できないところから表現がはじまる」紅玉さんのこの言葉は、Mi-Mi-Biにとっても核となる言葉に感じます。紅玉さんの訃報は大きな哀しみでしたが、さいごと一緒にクリエイションの時間を過ごすことができました。これから、この作品を大切に踊り継いでいきたいです。海外カンパニーとの協働も実り多いものでした。イギリスの Stopgap Dance Company とのダブルビル公演とワークショップ、台湾の Resident Island Dance Theatre との野外公演、そして韓国の Cane&Movement / TRUST Dance Theatre との2度目の協働。特に韓国との共同作品では、車椅子を離れた身体が舞台上で新たな自由を獲得し、身体表現の新しい可能性を提示しました。台湾の張忠安の政治性を含んだ創作、韓国のキム・ヒョンヒとの柔軟性に富んだ身体探求など、どれもカラーやアプローチが違っており、3名の振付家との出会いは大きな学びとなりました。Cane&Movement / TRUST Dance Theatre の公演で出会った新しい若手ダンサーとのつながりは、2026年度へと続いています。



三田宏美さん

コラム Mi-Mi-Biメンバー / 踊る手話通訳士

国内外の演出・振付家との協働がたくさんあった1年でした。そもそも同じ日本語を母語とする人同士でも、ひとつの言葉から受け取るイメージは一人ひとり異なりそれを表す身体も感覚も個々に違う中で、「異なる言葉や文化、異なる身体や感覚の人間達がひとつの舞台をつくりあげていく」ということ。手話通訳をしつつ自分もダンサーそして音声外国語通訳を受ける立場になって、通訳を介して受け取った言葉から広がり共有できるイメージの豊かさに言葉の重要性を改めて実感するとともに、身体がそこにある、それぞれに異なる身体同士で対峙して重ねていくからこそその強さ豊かさをかみしめる日々でした。言葉や感覚を越えて身体同士でお互いに息と身体を合わせる中から立ち上がる諸々。異なりを異なりのままに共に創造に向かえる場がこれからも続き発展していくことを願っています。



共催事業

HAPPY AFRICAN FESTIVAL 2025

異なる文化が出会い、響き合う場として開催した「HAPPY AFRICAN FESTIVAL 2025」。国内外から多様な背景をもつアーティストと神戸／新長田の人々が集う祝祭となりました。

1日目のコンテンポラリーダンスプログラムでは、身体を通して個人の物語や社会への問いを提示し、文化を越えた対話の可能性をひらきました。2日目のコミュニティプログラムでは、まちへと場を広げ、誰もがパフォーミングアーツを楽しみ、参加できる環境を創出しました。3日目のトラディショナルプログラムでは、アフリカをはじめとする各地の音楽が響き合い、世代や国籍を超えたつながりと一体感を育む機会となりました。

主催：Arts For All

共催：文化庁、NPO法人DANCE BOX（文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」）

助成：(公財)ひょうごコミュニティ財団

協力：コイネー、セカンドホーム、(株)HAPPY、株式会社エフマシン

企画制作：Arts For All、NPO法人DANCE BOX

1日目 コンテンポラリーダンスプログラム

日程：2025年11月14日（金） 時間：13:30、18:30 ※全2回公演

会場：ArtTheater dB KOBE

J'sun Howard

演出・振付：J'sun Howard

出演：天野朝陽、遠藤リョウノスケ、十川大希、山本和馬

ダンスカンパニーMi-Mi-Bi

演出：紅玉（千日前青空ダンス倶楽部）

出演：福角幸子、三田宏美、森田かずよ、も

協力：稲吉、ボン太、エミリー（千日前青空ダンス倶楽部）

Arts For All

Alain SINANDJA & 小松加奈、山之内理枝



コラム

Alain Sinandjaさん

Arts For All主宰、ダンサー、振付師

2025年に開催した第4回『HAPPY AFRICAN FESTIVAL』では、初めてコミュニティプログラムに力を入れ、劇場を飛び出してまちなかで展開しました。公演を上演するだけでなく、地域の人々を巻き込み、共に体験を創り出すというフェスティバルのビジョンが、より強く、明確になったと感じています。新長田駅前でのパレードや公共空間でのパフォーマンスでは、目的を持って訪れた方だけでなく、偶然通りかかった方々にも自然な形でフェスティバルを届けることができました。世代や国籍の異なる人々が同じ場で音楽や踊りを分かち合う光景は、アーティストと地域コミュニティのあいだに確かなつながりを生み出しました。挑戦も多い開催でしたが、コンテンポラリーダンス、トラディショナル、コミュニティの各プログラムを一体として実現できたことを誇りに思います。支えてくださったすべての皆様に心より感謝するとともに、フェスティバルの未来に向けて情熱を持ち続けたいと思います。



2日目 コミュニティプログラム

日程：2025年11月15日(土) 時間：11:00~17:00

会場：はっぴーの家ろっけん、二葉地域福祉センター前、
新長田駅前広場、他

アーティスト：K-106、ギンガンゴン、Resident Island Dance Theatre、
ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi

マルシェ：Baobab、kwa MALOGO、つむぐ学舎、アフリカ・スーダン飯
Shendi、Africa cola(時間 11:00~16:00 / 会場 はっぴー
の家ろっけん)



3日目 トラディショナルプログラム

日程：2025年11月16日(日) 時間：15:00 ~ 19:30

会場：ArtTheater dB KOBE

出演：遊合芸能 チングドゥル[バク ウォン&趙恵美]、doni doni、
MILLOGO BENOIT、太鼓楽団大地の会、Arts For All &
Kalifa Kone, Papou

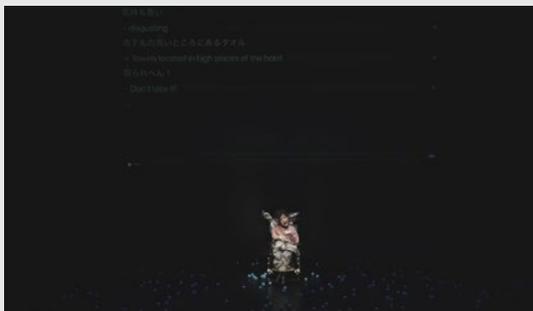
マルシェ：アフリカ・スーダン飯Shendi、ほんぼこCoffee♪、心心
-ちむちむ-、SukhaAfrica、セカンドホーム、Africa cola



情報保障

情報保障

字幕 実施公演



鈴木ユキオ×Stopgap Dance Company 国際共同制作プロジェクト『Beyond!』、『HAPPY AFRICAN FESTIVAL 2025コンテンポラリーダンスプログラム』他、日本語字幕と英語字幕を投影しました。

言語通訳



多数のプログラムに手話通訳を導入。また日英、日中、日韓通訳など必要に応じて、通訳を導入しました。

ウェブサイト・SNS

ウェブサイト

2つのウェブサイト(こんにちは、共生社会プロジェクト全体について、やさしいコンテンポラリーダンスクラス単独ウェブサイト)を運営し、障害のある方もない方も、ウェブサイトを見たときに情報が伝わりやすいよう工夫を重ねながら運営しています。またこれまで開催した公演やイベントなどの情報も、開催後に「レポート」として掲載しアーカイブしています。文字サイズや色の変更、日本語の他に4つの言語の自動翻訳に対応しています。



こんにちは、
共生社会



やさしい
コンテンポラリー
ダンスクラス

X/Instagram

公演やイベントの情報の他、日々の様子などを配信しています。



こんにちは、
共生社会



こんにちは、
共生社会



やさしい
コンテンポラリー
ダンスクラス

スタッフコラム 2025年度を振り返って



新家綾

NPO法人DANCE BOX
アウトリーチ・コーディネーター

神戸市立青陽灘高等支援学校でのアウトリーチは、今年で4年目となりました。年に一度だけとはいえ、継続的に関わる中で、「積み上げ」ということの重要さが見えてくるようになりました。生徒の皆さんは、踊ることに躊躇がない人も、輪に入ることが難しい人も、全員が自分たちのペースでその場を楽しんでいたように思います。なかでも3回目となる3年生は身体の工夫が随所に見え、自らの身体を通じた楽しみ方をすでに体得していたかと思えます。他者との距離感も適切に保ちつつ、互いに表現を深めていく姿があったのはまさに、継続の成果かと思えます。また先生方も、率先して生徒たちと肩を並べ、一緒にいろんな身体を楽しみ、参加してくださいました。先生が楽しんでいると生徒たちはもっと面白い形を、もっと面白い渡し方をとより模索をする。試してみる。その循環が見られたのが今年度の大きな資産であると感じます。

1・2年生も50分という限られた時間の中で、自分が思いつきもしなかった形が無意識に出てくる不思議さや面白さを発見できたと思います。身体や感情を使う以上表に出てくるまでは時間を要することもあります。だからこそこの先も継続することで、「楽しい」から自らを自由に発展させていく過程を歩んでほしいと願っています。



鈴木優

NPO法人DANCE BOXスタッフ/
カメラマン

月に一度の「やさしいコンテンポラリーダンスクラス」はいつも和やかな雰囲気、毎回参加してくれる常連メンバーのリラックスした様子が劇場全体に広がって温かい気持ちになります。クラスの最後には輪になって座って、まだ踊りたい人が順々に輪の中で踊っていくのをみんなで鑑賞します。あらためて考えると「自由に踊ってみましょう」と言われてすぐに踊れる人や、他人の目を気にせず踊れる場所はなかなかありません。誰かが気持ちよく踊る姿には強く感動させられるなにかがあって、そんな場を大勢で共有できていることもとても嬉しく感じます。

わたしは2年前から記録撮影のためのカメラを構えながらクラスに参加していますが、ナビゲーターの西岡樹里さんに撮影の要望があるか訊ねた際、樹里さんは「優さんがステキだと思った『カラダ』を自由に撮ってください」と笑顔で仰られました。「心のままに楽しく踊るカラダ」、「だれかに全力で応えるカラダ」、やさコンがはじまると、そこにはいろんなカラダが立ち現れます。自分がどういふ「カラダ」をステキだと感じるのかは自分にしか分からないし自分で決めて良い。やさコンを撮るなかで、毎回新鮮な視点で自分なりの「ステキ」を発見させてもらっています。



内田結花

NPO法人DANCE BOXスタッフ/
振付家、ダンサー

今年も多彩なプログラムを展開した「こんにちは、共生社会」プロジェクト。とりわけ今年度は国際色が濃く、日本語、手話、英語、中国語、韓国語など、さまざまな言語が飛び交う現場となりました。通訳の方に入っていた場だけでなく、休憩や移動中などの時間にも、それぞれが工夫を凝らしながら関わり合う姿を見ました。異なる言語や文化が交差するなかで、すれ違いやズレを含みつつも伝え合おうとする時間は、私にとって他者と通じ合う方法をあらためて問い直す機会となりました。

また今年度のMi-Mi-Biは、舞踏をベースとする振付家・紅玉氏とレパートリー作品を創作し、二度の発表の機会を得ました。私は紅玉氏の振付に触れるなかで、シンプルな動き（たとえば歩くこと）に多層的なイメージを重ね、そのものに「成る」を通して、その世界に「存在する」身体へと変化していくような側面があるのではないかと感じてきました。視覚的に動きを揃えること以上に、内側のイメージの濃度を高め、その結果として立ち現れる身体、そこから立ち上がる風景をつくっていく創作プロセスは、Mi-Mi-Biにとって新たな可能性を感じる時間となりました。

しかし、初演を迎える数日前に突然届いた紅玉氏の訃報。大きな衝撃とともに、最後にお会いしたときの様子や交わした会話が思い返され、さまざまな感情が駆け巡りました。私は2016年より紅玉氏の振付作品に参加し、また紅玉氏が立ち上げたカンパニー「千日前青空ダンス倶楽部」のエミリーとして、その世界に折々触れてきました。そうした経験を背景にMi-Mi-Biに並走させていただき、ともに初演を無事に迎えることができ、今はただただホッとしています。

同時に、この作品は、これからMi-Mi-Biがどのように踊り続けていくのかを問いかける「紅玉からの宿題」でもあると感じています。その問いに答える難しさを抱えながらも、Mi-Mi-Biらしく、面白みや楽しさを見出しつつ取り組んでいけたらと思います。

